

5 称念寺文書 1,134点 [有形文化財（古文書）]

[所在地] 檀原市今井町3丁目2番29号

[所有者] 称念寺

[法量] 1,134点

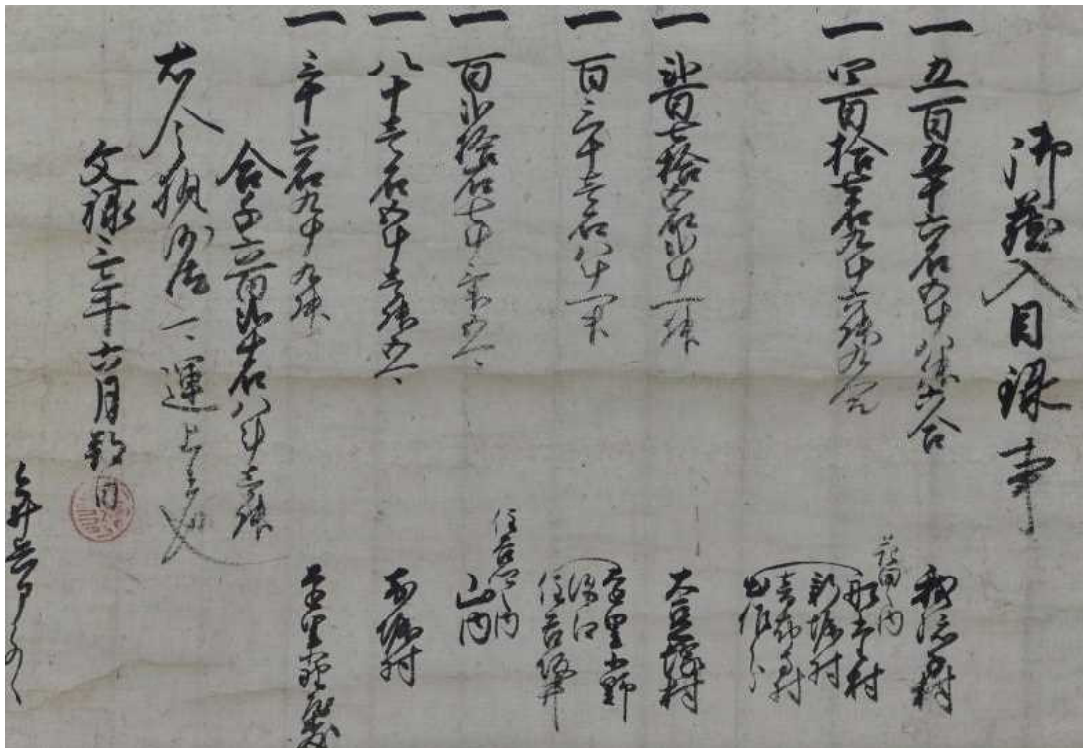
[時代] 桃山時代～昭和時代

[概要]

檀原市今井町に所在する浄土真宗本願寺派寺院、称念寺に伝わる古文書群。中近世移行期から近現代に及ぶ史料1,134点から成る。

真宗の宗門に関わる史料が中心をなし、天正年中に今井郷惣中に宛てて発給された織田信長朱印状・明智光秀書状といった中近世移行期のものの他、大和五ヶ坊の一つ「今井御坊」として大和の真宗寺院の中核的な地位にあったことから、本山や末寺等との間で授受された史料が豊富に存しており、大和国の真宗教団の展開を考える上で重要である。ついで、代々住持を務めた今井氏の家に関わる史料があり、特に、摂津国の豊臣家直轄地の支配に関する豊臣秀吉朱印状や、近世を通じて残される紀州徳川家との関わりを示す史料は、僧侶と武士の両様の性格を合わせ持つ「武釈兼帯^{ぶしやくけんたい}」という今井氏の身分的特質をよく示している。また、今井地域の土地や水利に関わる史料も豊富に含まれる。

本文書は、今井氏の「武釈兼帯」という身分的特質に由来する多彩な内容の史料から構成されており、真宗の宗門史料としてはもちろん、大和国の地域史料としても高い価値を有するものである。



文祿三年六月朔日付今井兵部宛豊臣秀吉朱印状